

平成20年度 総合的な放課後対策推進のための調査研究受託事業

# 放課後活動支援モデル事業報告書

特別に支援が必要な子ども（障がいや外国籍等）の活動機会の充実のための取組

『異言語異文化で特別支援が必要な  
児童生徒のための放課後交流支援事業』

—わくわく交流・ゆたかな放課後—

こどもの文化研究所

## ■事業のテーマ

異言語異文化で特別支援が必要な児童生徒のための放課後交流支援事業

■実施期間 平成21年2月6日から平成21年3月30日

## ■事業の目的

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な児童にも放課後の居場所を用意し、

- 1 癒しと交流学習の場、および、より適切な就学指導の機会を提供する。
- 2 公立学校に馴染めない園児・児童生徒に、より望ましい就学の場を提供する

## ■事業の実施内容

- 1 日系ブラジル人子女等、日本に居ながら文化や言葉を異にした児童生徒も、深刻な不況によって、その多くが日本の公立学校に就学している。しかしながら、異文化の中に置かれるストレスや、言語習得の困難によって、特別に支援が必要な状況に陥っている者が少なくない。

彼らに対して、自言語自文化の中で、のびのびと放課後を過ごすことのできる、日本人にも外国人にもハンディを持った子どもにも開かれた居場所を用意して、ストレスを癒し、様々な子どもとの交流を通して心を育て、学習を促す支援が必要である。

- 2 日系ブラジル人子女等、日本に居ながら言葉や文化を異にした児童生徒の中には、日本の園・学校や市の就学指導委員会において審議の対象となる者が少なくない。それは異言語異文化の環境が知的情緒的に大きな負荷となっているからだと考えられる。彼らは、日本の公立小中学校の特別支援学級へと就学指導がなされる場合が多いが、本来は、ブラジル人学校等自言語自文化による教育機関で、特別支援を受けることが望ましいと考えられる。しかしながら保護者の経済的な負担が多いことや、ブラジル人学校等に特別支援教育が整っていないことによって、異言語異文化による公立学校の特別支援教育を受けざるを得ない状況である。しかも、未就学の児童生徒の中にこそ、特別支援教育が必要な者が多いことが予想される。

彼らを放課後の居場所に招き入れて適切な就学指導をし、自言語自文化による特別支援教育の道を開き、放課後には健常のこどもとのびのびと交流できる教育環境作りが必要である。

## ■事業の効果・成果

### 1 日本に居ながら文化や言葉を異にし、なおかつ特別な支援が必要な児童18名に対して、放課後の居場所と学習の場を提供することによって、

(1) 公立学校在籍者：ストレスが癒され、学校生活を生き生きと送ることができた。

- ・ 日本語が不自由で、しかも経済的理由で転居をした女兒は、公立小学校で情緒不安定になっていたが、本事業の「放課後こども教室」に通うようになってから、それまで以上に笑顔で小学校生活を送るようになった。

(2) ブラジル人学校在籍者：公立学校在籍者との交流を通して、日本語会話に触れる機会ができた。

- ・ 公立小学校に通うブラジル人と日本語で会話をしたり、日本人に「こんにちは」「またあした」などの言葉を進んでかける姿が見られた。
- ・ ノートや消しゴム等の学用品を支給して、無料で日本語会話の授業を実施した。

(3) 不就学者：就学への意欲を持ち、適切な就学指導と就学準備教育を受けることができた。

- ・ アサヒポルトガル語教室の後援会にあたる学校組合組織を通して、主として不況による経済的な理由から不就学に陥った子供を誘って、日中の居場所と無料の学習の場を提供することができた。

### 2 日本の公立学校に馴染めない園児・児童生徒に対して、より望ましい就学の場を提供することによって、

(1) ハンディを持つ子ども：異言語異文化のストレスから解放されて、言語自文化のもとで、より適切な自己実現の可能性が開かれた。

- ・ 一旦は公立小学校に編入したものの、情緒障害の疑いのある極端な内向性によって離席や自傷行為を繰り返すようになってしまった男児に対して、保護者と教育相談を重ね、本事業の「特別支援教室」に通級を促し、様子を観察することにした。するとブラジル人学校の環境では、離席や自傷行為は見られず、笑顔で生き生きと学習に取り組むようになった。そして公立小学校の新学年に向けて意欲を持つことができるようになった。

(2) ハンディを持つ子どもの保護者：負担が軽減される可能性が見えてきた。

- ・ 保護者から、長期にわたり不就学状態の男児を就学させたいという相談が公立小学校にあり、事情を聴取した。経済的理由で公立学校でしか学ばせられないが、9か月後の12月には父親がブラジルに帰国しようと考えており、それまでの間日本語が全く解らないというハンディを持って学校生活を過ごすことができるか心配をしていた。そこで「放課後こども教室」を紹介した。本事業では残り8か月の就学の場を保証することはできないが、今後も継続することができれば、他の子供の含めて、帰国準備をする保護者の負担が軽減される可能性が見えてきた。

(3) ハンディを持つ子どもと健常な子ども：放課後を共に過ごすことによって自然な交流を図ることができた。

- ・ 生まれつき左眼球がなく言葉も不自由な日本人の男児は、「放課後こども教室」の家庭的な環境が気に入り、居場所として求めるようになった。

#### ■実施の経過

平成21年2月7日	「特別支援教室」開設通知、「放課後こども教室」開設講師を招いての研修会 アサヒポルトガル語教室の後援会(学校組合)による特別支援対象児童生徒の調査、関係職員研修会
3月5日	市教育委員会就学指導担当者からの情報収集 就学指導、関係職員研修会
3月16日	「特別支援教室」開設、関係職員研修会
3月19日	市教育委員会担当者との打ち合わせ 教室紹介発行、関係職員研修会
3月21日	学習発表会(市こどもの美術展参加) 就学指導、研修会 事業のまとめと報告書の作成

## Escola Brasileira Sol Nascente (アサヒポルトガル語教室)

美術を楽しみながら、ポルトガル語で勉強をしています。今年の2月・3月は、こどもの文化研究所と力を合わせて、文部科学省放課後活動支援モデル事業に取り組み、つくりえとが、その発表の場になりました。おおらかで豊かな、ブラジルのこどもたちの作品をお愉しみてください。



### 放課後活動支援モデル事業について

#### テーマ

異言語異文化で特別支援が必要な児童生徒のための放課後交流支援事業

#### 目的

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な児童にも放課後の居場所を用意し、

- 癒しと交流学習の場、および、より適切な就学指導の機会を提供する。
- 公立学校に馴染めない園児・児童生徒に、より望ましい就学の場を提供する。

## こどもの文化研究所

「わくわく交流・ゆたかな放課後」そして「美術でともだち！」を合言葉にした、「こどもの文化研究所」の活動は2月に、**文科省放課後支援モデル事業**に採択され、これからの進化の可能性が見えてまいりました。

### 事業の効果・成果

- (1) 公立学校在籍者: ストレスが癒され、学校生活を生き生きと送ることができた。
- (2) ブラジル人学校在籍者: 公立学校在籍者との交流を通して、日本語会話に触れる機会ができた。
- (3) 不就学者: 就学への意欲を持ち、適切な就学指導と就学準備教育を受けることができた。
- (4) ハンディを持つ子ども: 異言語異文化のストレスから解放されて、自言語自文化のもとで、より適切な自己実現の可能性が開かれた。
- (5) ハンディを持つ子どもの保護者: 負担が軽減される可能性が見えてきた。
- (6) ハンディを持つ子どもと健常な子ども: 放課後を共に過ごすことによって自然な交流を図ることができた。

## ごあいさつ

今年も、みなさんが楽しみにしていた、つくりえとがやってきました。きっとどの学校や団体のみなさんも、この日のためにたくさんの準備をしてきたことでしょう。今日は、いろいろな人と交流し、一人ひとりの夢に一步近づくチャンスです。助け合いを大事にし、つくりえとを成功させましょう。

実行委員長(岳洋中美術部長)村松麻衣子

一体、今年はどうなることだろう・・・つくりえとの事務局を務めている「こどもの文化研究所」のたった1人の所員は、ため息ばかりついていました。

文化会館アエルでの展示ができにくくなって中央公民館の利用率が上がったために、開催日が春休みにずれ込んだり、声をかけていた団体さんが不況のために活動を休止することになったり、7回目を迎える今年は、時代の流れを強く感じさせられました。

でもそんなとき「今年もつくりえとのために描きためていませう」という声を聞いて、(つくりえとも文化として育ててきたな)と、勇気づけられたものでした。

「わくわく交流・ゆたかな放課後」そして「美術でともだち！」を合言葉にしたつくりえとの活動は、2月に、文科省放課後支援モデル事業の発表の場として、また国民文化祭 2009 IN きくがわのモデルとして認められ、これからの進化の可能性が見えてまいりました。事務局は、一層忙しくなりましたが、今では、感謝の気持ちでいっぱいです。

つくりえと実行委員会事務局

♥開催に際しまして、小笠学生協様、スタジオワン福田様、たこまん様から、温かいご支援をいただきました。

# 美術でともだち！

## 第7回

# つくりえと



3月21日つくりえと集合写真♥これからパーティー会場へ

平成21年3月21日(土)～3月29日(日)

## Escola Brasileira Sol Nascente (アサヒポルトガル語教室)

美術を楽しみながら、ポルトガル語で勉強をしています。今年の2月・3月は、こどもの文化研究所と力を合わせて、文部科学省放課後活動支援モデル事業に取り組み、つくりえとが、その発表の場になりました。おおらかで豊かな、ブラジルのこどもたちの作品をお愉しみください。

## 大浜中美術部

みんな仲が良く、楽しく活動しています。活動内容はポスター作りが中心となっています。毎年たくさんのポスターの募集が来ます。その中から自分でやってみたいポスターを描いています。また掛川市の「光のオブジェ展」に応募し、みんなでアイデアを出し合って二つの作品が入賞しました。締め切り間際みんなの協力がすごかったです。とてもいい部活です。

## 絵画グループ絵画教室

1年生から絵画教室に入りました。絵のせん門家の先生に教えてもらえて楽しいです。おじいちゃんやおばあちゃんたちといっしょに、安心して絵がかけます。毎週第3土曜日の2時間が、あっという間にすぎてしまいます。なかまをふやしたいです。

## 岳洋中美術部

2年生12人、1年生7人で楽しく活動しています。「つくりえと」に飾る作品製作に、とても力を入れてきました。思い思いに好きな絵を描いてみましたので、感想をいただけるとうれしいです。これからもよい作品づくりや学校掲示づくりをがんばります。

## 菊川西中美術部

2年生5人、1年生1人という少人数で活動しています。1学期には3年生が中心になって体育祭のスローガンを制作し、2学期には、文化祭でアエルのステージ上に飾るスローガンを、1・2年生で力を合わせて制作しました。普段は個人制作が中心ですが、今年は部員で「植物画コンクール」に応募しました。3年生が引退して部員が半分になってしまいましたが、これからもガンバリマス。

## Centro Cultural Fa a o Melhor (文化センターせいっぱいがんぼろう)

ブラジル人の子供たちが、放課後の時間を造形などの文化活動に取り組み、様々な障害を乗り越えてせいっぱいがんぼろの力を学びました。1年に満たない活動期間でしたが、素晴らしい作品を残すことができました。

## 常葉菊川中

毎年1年生が授業で作る「ベニヤ人」を会場のいろんなところに展示しました。ベニヤ板に描いた絵を木工ミシンで切り抜いて、アクリルガッシュで色を塗りました。それをレンガとドッキングして好きな場所へ置くのです。きっとその場所が絵になりますよ。会場の中から、ベニヤ人たちを探してみてください。

## ドリーム・フィールド

浜松市天竜川町に校舎のあるフリースクールです。こどもや青年が、ドリームフィールドにやって来て、自由に学んでいます。造形は、音楽と並んで、活動の柱のひとつです。また、つくりえとの交流パーティーでは、バンド演奏をお聞かせしています。

## 浜岡中美術部

私たち浜岡中美術部では、1人1人が個人の作品に集中して取り組んでいます。ほかにも合唱祭のときにステージに飾る大きな絵や、学期ごとのテーマに合ったステージ画というものも描いています。みんなが協力して、仲良く活動しています。

## 原野谷中学校美術部

少ない人数ですが、1年、2年と力を合わせて、活動しています。内容は主にコンクール出品やイラスト制作になります。また行事ではみんなでイメージ画を描くなど、学校内外で積極的に活動しています。

## まなびの場わくわく

こんにちは！「まなびの場 わくわく」です。掛川市役所大東支所の西隣にある平屋の建物です。「人は輝く」という信念のもとに設立された民間の教育施設で、3年目を迎えました。私たちは、放課後に集まって、自分の可能性や、やる気をわくわく感じながら、真剣でリラックスした学びの時間を過ごしています。勉強は個人指導でゆっくりといねいに学べます。調理や造形、ボランティア活動にも取り組んでいます。つくりえとには、初めての参加です。

## 夢みるマンガ家・イラストレーター集まれ！

「夢見るマンガ家・イラストレーター集まれ！」の講座は、自由に参加できますので、イラストやマンガが好きな子は 090 7300 4794 落合までご連絡下さい。みんなと一緒に楽しく絵を描きましょう！